

小林恭子の ロンドン発 グローバル随想

第13回

コロナで広がる 経済への打撃



イラスト・題字：長峯亜里

子どもたちの歓声が心地よく

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、英国では3月23日に外出禁止令が敷かれた。「自宅にこもる(Stay at Home)」がスローガンとなり、外出は1日1度に限定された。その後、次第に感染者数・死者数ともに減少の兆しが見えたことで、5月中旬以降、段階的に解除されつつある。

新スローガンは「常に注意(Stay Alert)」である。「社会的距離」政策は続くので、同居する家族以外の他者と会う時は2メートルの距離を置く必要があるが、外出回数は無制限になった。イングランド地方の住民は日帰り旅行であれば地方内のどこに出かけてもよいという。筆者と家人はこれ幸いとばかりに車に飛び乗り、イングランド地方南部ウェスト・サセック

ス州にある海岸の町イースト・ウィッタリング(人口約4500人)に向かった。

筆者が30年ほど前から時折訪れてきたこの町の商店街は、大きなスーパーを除き大部分が閉店中だった。雑貨屋の店先には夏の風物詩となる浮き輪、カラ

フルなビーチボール、^{たこ} 虫取り網などが入ったかごが置かれていたが、人影はまばらだ。

海岸沿いに建つ民家の路上に車を停め数分歩くと、砂利の上にそれぞれの陣地をつくる家族連れの姿が見えてきた。砂利の先は渚である。ビーチボールを取り合いながら遊ぶ父親と娘、濡れた砂の上に座り込みシャベルで穴を掘る男の子、追いつがる犬とのかけっこに興じる若い男性の様子を目で追うだけでも楽しい。子どもたちの黄色い歓声が耳に心地よく響いた。

大規模削減の意味がじわじわと

久しぶりの開放感を味わった筆者だが、外出禁止令による経済への負の影響を日増しに感じるようになったこの頃だ。

禁止令発動からほんの数週間で、ビジネス状況は様変わりした。利用者が激減した航空業界では、大手航空会社が大量の人員削減を発表している。ヴァージン・アトランティック航空は全従業員の3分の1にあたる3000人を削減予定で、ロンドンのガトウィック空港からの撤退も示唆。英国航空(BA)は4万2000人中1万2000人を削減予定で、航空機エンジン大手のロールスロイスは全従業員5万2000人のうち約9000人を削減するという。

テレビのニュース番組では、空港の敷地内に



イングランド地方南部イースト・ウィッタリングの雑貨屋の店先
(筆者撮影)